

生物資源科学部だより

編集・発行／島根大学 生物資源科学部 TEL:0852-8504 島根県松江市西川津町1060 URL:<https://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL:(0852)32-6493 FAX:(0852)32-6499 E-mail:lif-jimu@office.shimane-u.ac.jp

Vol.30

発行 2019年 7月



学部長より保護者の皆様への挨拶

いとう かずひと
生物資源科学部長

井藤 和人

保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。お預かりしているお子様が有意義で充実した大学生活が送られるよう、また、社会で活躍できる人材として送り出せるよう教職員一同で努めてまいりますので、皆様には一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本学部では、地域社会から要請の高い分野の理系人材を育成するために、昨年度より、「生命科学科」、「農林生産学科」、「環境共生科学科」の3学科に再編し、新しい体制での教育・研究を行っています。年2回発行する「生物資源科学部だより」では、本学部の活動状況、お子様方の学習の様子や就職状況などについてお知らせしています。11月2日に予定しています保護者会と合わせて、お子様方の様子や大学について知りたいだけの機会となることを願っております。

大学院も昨年度から、総合理工学研究科と統合した「自然科学研究科」を新設することで、これまでの体制ではできなかった自然科学系の幅広い学問分野における人材の育成を目指しています。高い専門性や汎用性スキルが求められる職業への就職のチャンスが広がることが期待されますので、お子様方の進学につきましてもご検討いただければ幸いです。

最後になりましたが、皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

生物資源科学部に新入生227名が入学

—入学式後に保護者会・後援会総会も開催—

4月2日(火)、松江市の「くにびきメッセ」で平成31年度島根大学入学式が挙行され、生物資源科学部には1年生208名、3年次編入学生19名および大学院自然科学研究科の生



くにびきメッセでの入学式

物資源科学系の環境共生科学、生命科学、農林生産学の3コースには60名が入学しました。

入学式後、生物資源科学部保護者会・後援会総会を開催し、多くの保護者の方にご参加いただきました。保護者会では、井藤学部長の挨拶に続いて武田学生委員長から入学後の学生生活、学生支援等について説明がありました。引き続き後援会総会を開催し、野々村会長の挨拶後、新理事の選出が行われました。



保護者会・後援会総会の様子

後援会への入会をお待ちしています!

生物資源科学部後援会は、「生物資源科学部の強化発展を期し、その教育事業を後援することを目的」として、保護者の皆様が会員となり、学生の進学、就職支援ならびに学生生活充実のための様々な学生活動への支援をいただいている。未入会の方には、「島根大学生物資源科学部後援会入会への案内」パンフレットをご覧いただき、是非入会いただきますようお願いします。

●学部生 入会金及び会費30,000円

●3年次編入学生 入会金及び会費15,000円



保護者会での個別面談の様子

1～4年生の様子

生命科学科

【1年生】 留学生2名を含む72名の新入生を迎えました。1年次は、幅広い教養を涵養する全学共通教育科目と専門分野の基礎となる基盤科目を学びます。前期の初年次教育では、数人のグループで2つの研究室を訪問して3コマずつ指導を受け、研究の面白さに触れるとともに、新入生同士、さらには教員や上回生との交流を深めています。

(地阪准教授)



【2年生】 2年生からは、細胞生物学コース、水圈・多様性生物学コース、生命機能化学コース、食生命科学コースへと配属になります。それぞれのコースでは、これまでに学んだ全学共通教育科目と基盤科目の内容を基盤に、専門科目も学び始めております。加えて、学生実験を通して、研究を進める上で必要な実験技術についても指導を受け始めているところです。

(清水准教授)

生物科学科

【3・4年生】 3年生は生物科学実験Ⅲが始まりました。この実習は今までの基礎的な実習とは違い、研究室で行われているのと同じレベルの実験になります。これまでに勉強してきた知識をたくさん使い、実験の目的や原理を理解しなければいけません。大変な実習ですが皆楽しそうに参加しています。

4年生は就職活動を行っています。今年は3月に早々と内々定が出てしまう学生もあり、例年よりも早い感じがします。6・7月には公務員試験、その後には教員採用試験があります。希望通りの就職先に決まってくれることを願っています。就職活動が終わった学生は、卒業研究を開始しています。良い研究結果が出せるように一生懸命努力してもらいたいと思います。(秋廣助教)



生命工学科

【3・4年生】 3年生は、2年次よりもさらに専門性の高い専門科目の履修が始まりました。さらに、午後から開講されている実験科目は、各研究室の研究につながるやや高度な内容となり、基礎から応用まで種々の実験技術と知識を習得します。どの科目に興味を見出しか、後期に配属される研究室の選択においても重要となってきます。

4年生は、3年生後期に研究室に配属されたあと、専攻実験や演習によって卒業研究に必要な知識と技術を学んできました。就職活動なども重なり、忙しい時期ですが、それぞれが新しい成果を出すことを目標に、卒業研究に取り組んでいます。実験を通じて、考える力や課題解決能力を養い、社会で通用する力を育んでもらいたいと思います。



(戒能准教授)

農林生産学科

【1～4年生】 本年度は63名の新入生が農林生産学科に入学しました。4月11日に開催された新入生歓迎会に参加し、在学生から大学生活でのアドバイスを受け、クラスメートとの交流を深めました。これから、専門学習として農林生産基礎セミナーや農林フィールド実習を通じ農林生産に関する様々な知識を身につけていきます。

2年生になると、4つのコースに分かれてそれぞれのカリキュラムで学習を進めています。4月4日のコースガイダンスでは、各コースにおける今後の修学に関する説明を受けました。年間を通してコース毎の特色ある実習や演習に取り組み、農林生産学の各分野における課題について深く考えていきます。



農業経済学コースでは、2年生が雲南市吉田町民谷地区と飯南町獅子地区を訪れ、田植えやタケノコ掘りなどの地域活動に参加し、地域の方々との交流を深めました。今後も継続的に地域を訪れ、地域課題解決のための調査分析を行っていきます。ここで培った現場での様々な経験が卒論での調査・分析の際に活かされます。

森林学コースでは、3年生が森林調査実習で最近流行の人工知能・AIの実習を行いました。まずは、大量のデータが集めやすいアイドルの顔画像を人工知能に学習させて、個人の自動判別を行いました。ところが、教員も学生もアイドルには疎く人工知能が正しく判別しているのかわかりませんでした。次は本格的に植物の判別をしていく予定です。

4年生は現在、就職活動の追い込み時期で、学業と就職活動の両立に忙しくしています。就職活動が終わると、休む間もなく卒論研究に取りかかります。

(高田助教)

環境共生科学科

【1・2年生】 環境共生科学科の1年生は、英語などの教育科目や、環境共生科学入門、基礎セミナーなどの専攻科目を受講しています。実習や実験作業を含む科目にも取り組んでいます。いち早く大学に慣れて有意義な大学生活を送ってほしいです。2年生は、環境生物学、生態環境学、環境動態学、地域工学のいずれかのコースに分属しました。分属したコースで、専門的な知識や技術を身に着けるための専門科目を受講しています。あわせて実験科目も受講し、専門的な実験手法を修得すると共に、得られた結果を科学的に考察してレポートにまとめる方法を学んでいます。得た知識や技術を、社会でどのように生かしていくかを考え始めてもらいたいです。

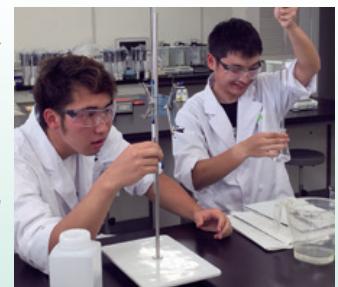
(林助教)



地域環境科学科

【3・4年生】 いよいよ、2019年度が始まりました。生態環境科学、環境資源工学、地域工学という3つの教育コースから構成される地域環境科学科では、3年生と4年生が、地域環境をより深く理解し、より先端的な観点から考究していくための歩みをしっかりと進めている最中です。3年生は後期から各研究室に配属され、これまで真摯に学んできた専門科目の知見や経験をフル活用していくための準備に取りかかることになります。4年生は、いままで各人の卒業研究に取り組み、新しい科学・工学的な結果を産み出すために力を尽くしています。各学生が、実りある今年1年を送ることを祈念いたします。

(吉岡秀和助教)



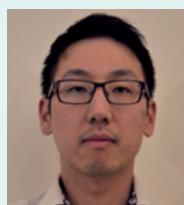
新任教員からの挨拶



り　　ち
李　　治 助教

環境共生科学科
平成31年3月1日着任

平成31年3月より環境共生科学科に着任しました。島根大学で長い学生生活を送りました。これからもどうぞよろしくお願い致します。再生可能エネルギーは化石燃料の代替品として、温室効果ガスの排出による環境への影響を軽減する上で重要な役割を果たしています。太陽光発電システムを農業に導入することは栽培施設での再生可能エネルギーの利用を促進できます。私は半透過型太陽電池を利用した温室自動遮光システムの開発に取り込んでいます。これからも電気工学や情報工学を活用して、植物栽培と再生可能エネルギー利用の視点から、農業生産に関わる研究を進めていきたいと思っています。



ながと　ごう
長門　豪 助教

環境共生科学科
平成31年3月11日着任

平成31年3月に着任しました。2つのテーマを研究しています。環境中の多環芳香族炭化水素(PAH)のより有害な同族体への変換を研究します。特に、微生物と溶存有機物がこの過程をどのように媒介するかを理解しようとしています。さらに、これらのPAH同族体が海水、底質、海洋生物にどの程度見られるかを理解したいと思います。私の他の研究分野は水環境におけるナノプラスチックです。ナノプラスチックが環境にさらされるとどのように成長し変化するかを理解したいと思います。ナノプラスチックがどのように環境成分(バクテリアや溶存有機物)と相互作用するかは、その毒性とコロイドとして残る能力に大きな影響を与えるかもしれません。



よしおか　ゆみ
吉岡　有美 助教

環境共生科学科
平成31年3月25日着任

平成31年3月に環境共生科学科地域工学コースに着任しました。農業農村工学や地域環境工学分野における視点から、地下水をはじめとする多様な水の循環を調査・研究しています。健全な水循環を維持するために、流域としてその水循環を総合的かつ一体的に管理することなどを基本理念とした水循環基本法が2014年に制定され、最近とくに地域や流域毎での水循環の解明が求められています。環境同位体やモデリングなどのツールを用いて、見えない地下水の分布や流動を見る化し、島根県をはじめとする地域の水についての課題を解決していく所存です。関係者の皆様方にはご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

平成31年3月卒業生 就職・進学状況

昨年に引き続き高い就職率となっています。

図1 近年の就職率(%)の推移

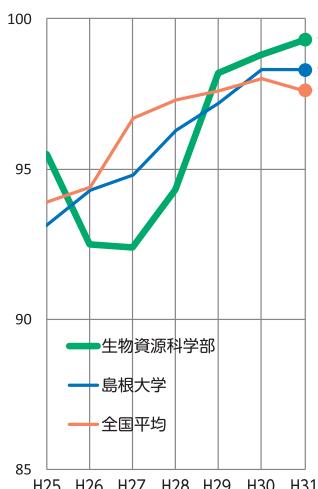
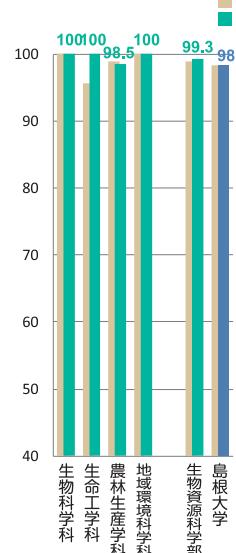


図2 学科別就職率(%)

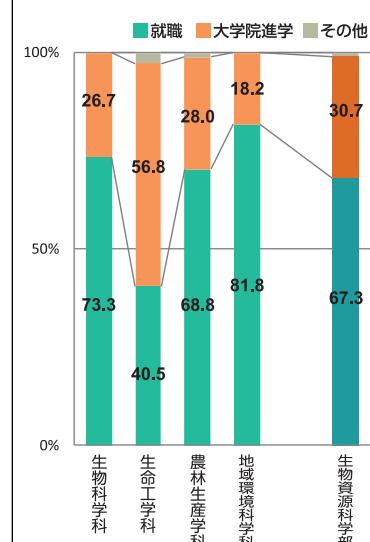


平成31年3月卒業生の就職状況は、就職希望者数139名(昨年164名)、就職率99.3%(昨年98.8%)と昨年より高くなり、島根大学の平均や全国平均よりも高くなりました(図1)。学科別の就職率を見ますと、生物科学科、生命工学科、地域環境科学科で100%となり全員の就職先が決定しています。農林生産学科は98.5%でした(図2)。就職状況は昨年に引き続き良い状況です。就職先は、企業(アース製薬、中外テクノス、オーライズミフーズ、丸大食品、島根ワイナリー、東海澱粉、神戸造園土木、大東化成工業、大東技研、積水ヒノマル、

安本建設、日東精工、中国電力、島根富士通、出雲村田製作所、山陰ケーブルビジョン、日本総合科学、JA鳥取西部、JA香川、農畜産業振興機構、島根県環境保健公社など)105名、公務員(松江地方裁判所、島根労働局、島根県畜産技術センター、大田市、広島市、新見市、倉敷市、豊岡市、島根県、香川県、高知県、山口県、北海道、東京消防庁など)30名、教員3名と多岐にわたります。

一方、大学院への進学率は、昨年から10%以上増え30.7%(63名)となりました。学科別の進学率は、生物科学科26.7%、生命工学科56.8%、農林生産学科28.0%、地域環境科学科18.2%で、生命工学科が高く、地域環境科学科が低めでした(図3)。大学院生の就職率は、93.9%(昨年97.8%)で、大学院全体98.9%よりやや低くなっています。大学院生は、研究職や技術職として採用される率が高くなっています。

図3 就職・進学の割合(%)



学会等における受賞者

受賞者	受賞内容
須貝 杏子 特任助教(生命科学科)	日本植物分類学会大会発表賞
川向 誠 教授(生命科学科)	日本農芸化学会 BBB Most-Cited Review Award
室田 佳恵子 教授(生命科学科)	農芸化学女性研究者賞
松尾 安浩 助教(生命科学科)	日本農芸化学会中四国支部奨励賞
吉岡 有美 助教(環境共生科学科)	日本地下水学会研究奨励賞

*職階は受賞時点のもの

平成30年度島根大学学生表彰 受賞者 生物資源科学部からは6名の学部学生が受賞

- 勉学に精励し、学業成績が特に優秀であり、他の学生の模範となると認められる者
DAI MING(生物科学科4年)、上野 祐美(生命工学科4年)、戸澤 碧(農林生産学科4年)、樋野 日向子(農林生産学科4年)、森本 由利子(地域環境科学科4年)
- 第73回「農業農村工学会中国四国支部講演会」において、奨励賞を受賞
島田 翼平(地域環境科学科4年)

※学年は平成31年3月時点のもの

大学院への進学を薦めています

2020年度春季入学(一般入試) 島根大学大学院自然科学研究科(博士前期課程) 学生募集

出願期間 【1次募集】2019年7月12日(金)～2019年7月19日(金)

【2次募集】未定

試験実施日 【1次募集】2019年8月29日(木)～2019年8月30日(金)

【2次募集】未定

お問い合わせ 自然科学系第二課(学務グループ・入試担当) Tel: (0852)32-6256

大学院修士課程でさらに2年間学ぶことで、より専門性の高い職業への就業力が身につきます